

SIIAアクションプラン2021

私たち特定非営利活動法人静岡情報産業協会(SIIA)では、昨年度末まで今後3年間のアクションプランの策定に取り組んできました。

デジタルトランスフォーメーション(DX)社会到来の渦中であって、コロナ禍による働き方や生活環境や地域の経済構造も大きく変わりつつあります。

私たちSIIAは、このような環境変化を受けとめ、改めて会員の意識統一を図り、地域の商工団体、大学などの教育機関や行政と連携し、デジタル化推進の役割を担える組織をめざしていくことをここに宣言します。

宣 言

私たちは、市場や技術の動向を踏まえ、会員のために役立つ情報と学習機会を提供し続けます。

私たちは、会員相互及び産・学・官との交流を活性化し、ビジネスの機会創出をめざします。

私たちは、産・学・官の連携を深め、学生へICTの魅力を訴求し、次の担い手の発掘をめざします。

2021年5月21日
特定非営利活動法人静岡情報産業協会

1	人材育成・教育研修 部会
SIIA アクションプラン	
今のSIIAに不足しているものは？ (Why)	
<ul style="list-style-type: none"> ・対象を明確にすることが必要ではないか ・各社の部門同士が意見交換できるような場があると良い ・アンケートも必要だが、受講者の属性を分析することも企画検討には効果的ではないか ・資格取得のための講座があると良い 	
今後のSIIAのありたい姿は？ (How)	
①	受講対象を明確にし、会員が求める研修やセミナー、勉強会を展開していく。
②	激動の時代の中、業界や市場の動向を踏まえ、最先端情報を収集し会員に提供・共有していく。
③	会員に役立つ研修・セミナーを開催するために、事業の振返りを行い、企画や方法をアップデートしていく。
④	これまでの方法に捉われず、様々な方法やツールを活用し、効果的な成長の機会を創っていく。
そのために3年後までに何をやるか？「アクションプラン(骨太の施策)」 (What)	
①	部門(開発・営業・経理など)と業種(ITベンダー・ユーザー)を意識した企画の検討と事業の展開
②	業界動向・市場動向の情報収集を進めるための、SNSなどツールの効果的な活用と他団体・コミュニティとの連携
③	企画や方法のアップデートのための、受講者属性や受講者の声の効果的な収集と分析
④	新たなツールや方法への積極的な活用(トライと研究)
宣言:「市場の動向や技術動向を踏まえ、会員に役立つ情報と学習機会を提供し続ける」	

2	ビジネスマッチング 部会
SIIA アクションプラン	
今のSIIAに不足しているものは？ (Why)	
<ul style="list-style-type: none"> ・SIIAの強み、会員企業の強み等の会員相互の理解 ・具体的な案件創出等の実現実績、アウトプット ・知名度、会員内外へのアピール 	
今後のSIIAのありたい姿は？ (How)	
①	中小企業のDX推進における接点となる
②	地域ICT推進における産学官連携の産をリードする
③	会員企業によるノウハウで課題を解決し、地域に頼られる存在
④	会員相互の情報交換により会員企業の強みを相互に理解している
そのために3年後までに何をやるか？「アクションプラン(骨太の施策)」 (What)	
①	会員企業の有する強みを会員企業相互にアピールする場を設ける
②	商工会議所と連携し中小企業のIT診断や同行コンサルの支援を実施
③	SIIA会員、商工会議所会員、行政機関相互でのアプリ開発等の勉強会開催
宣言：SIIAは会員相互及び産学官との交流を活性化し、ビジネスの機会創出をめざします	

3 人材開拓推進部会

SIIA アクションプラン

今のSIIAに不足しているものは？ (Why)

- ①協会会員としてのメリットを会員が言語化できていない。
- ②セミナー等を行った効果が測定できていない
- ③会員の連携協働が広がらない。
- ④ITが、社会インフラの一部であり、成長産業であることが伝わっていない。
- ⑤採用に直結するストレートな活動以外で、企業の魅力が学生に伝わっていない。

今後のSIIAのありたい姿は？ (How)

- ① 会員相互の交流が図れ、活動に参加し協会会員としてメリットを享受できる
- ② 学生が、SIIAの活動に参加してITの魅力、社会的必要性を感じ、SIIAの企業に応募。

そのために3年後までに何をやるか？「アクションプラン(骨太の施策)」 (What)

- ① 会員企業の採用担当者が集い、採用全般の情報交換会
- ② 学生等に、ITは社会インフラであり、成長産業であること知ってもらうセミナーを開催
- ③ 産学官(SIIA・大学・公共)連携を行い、時代の変化を捉える人材の情報収集、発掘

宣言:産・学・官の連携を深め、学生へICTの魅力を訴求し、次の担い手の発掘をめざします。